

## 学術研究推進助成実績報告書(中間)完了)

平成30年9月25日

公財岡山工学振興会

代表理事 古賀 隆治 殿

(所属機関名) 川崎医科大学耳鼻咽喉科学

(申請者名) 原 浩貴 (原)®

※研究期間に応じ、報告書の中間・完了のいずれか該当のものを○で囲ってください。

研究題目	鼻呼吸障害が睡眠中の呼吸機能に及ぼす影響に関する研究	
研究期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日	
共同研究者	氏名	所属機関(職名)
	兵 行義	川崎医科大学耳鼻咽喉科学(講師)
	雑賀 太郎	川崎医科大学耳鼻咽喉科学(臨床助教)
	濱本 真一	川崎医科大学耳鼻咽喉科学(臨床助教)
	田所 宏章	川崎医科大学耳鼻咽喉科学(臨床助教)
	藤田 祥典	川崎医科大学耳鼻咽喉科学(臨床助教)
	前田 祐一郎	川崎医科大学耳鼻咽喉科学(臨床助教)
研究題目についての研究発表	発表した学協会名と期日	発表した会誌等
	第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会(H29.4/13～4/15)、第118回日本耳鼻咽喉科学会(H29.5/17～5/20)、第79回耳鼻咽喉科臨床学会(H29.7/6～7/7)、第69回日本気管食道科学会(H29.11/8～11/9)	Auris Nasus Larynx 臨床免疫・アレルギー科 耳鼻咽喉科臨床
研究概要	<p>鼻呼吸障害が睡眠中の呼吸機能にどのように影響し睡眠の質を変化させているのかについて、①動物モデル②臨床研究の両面からの研究を行いました。①従来用いられているマウスのアレルギー性鼻炎モデルは、全身感作を行ってから局所に抗原を投与するものであり(全身感作モデル)、局所以外でアレルギー反応が成立した後に局所に抗原を投与するモデルなので、局所の早期病態を解析するには適していませんでした。そこで、抗原特異的IgE抗体を静注し、局所に到達したIgEのみが機能して症状を誘発する受動感作モデルを作製しました。来年度に受動感作モデルと全身感作モデルの比較検討を行う計画です。</p> <p>②臨床研究では、岡山県南の小学校に就学前児童に対して睡眠に関するアンケートを行いました。現在、統計解析中です。このアンケート調査は、来年度は学校数を増やし、数年かけて行う予定です。</p>	